



航海専科第3期生

学生募集

国家試験 四級海技士(航海)
7年連続合格率100% 達成
受験者数104名/合格者数104名
(国立小樽海上技術学校実績)



航海士を専門的に養成する
短期大学校です



国立小樽海上技術 短期大学校

 JMETS

独立行政法人海技教育機構



本校は未来の船長、航海士を養成しています。

安全かつ効率的な航海を行い、積荷を守り、旅客の命を預かります。計画通りに運航するために航法計算、航海計器類の取扱い、海上交通法規の把握といった専門的な知識と技術が求められ、また、貨物の荷役や管理といった職務を受け持ちます。

海技従事者は免許の世界。

船長、航海士は「職員」と呼ばれ、それぞれ、各部の要職を任される責任者です。これらの職務に就く者は、乗り組む船舶と職務等級に応じた海技免許が必要です。

本校は内航船舶に乗り組む際に必要な、四級海技士(航海)の取得を目指しています。



四級海技士免許を取得するには

●一般的には...

筆記試験合格

乗船履歴(3年)

身体検査合格・口述試験合格

免許講習

免許取得

免許取得に3年以上の時間が必要

●国立小樽海上技術短期大学では...

筆記試験免除

乗船実習で乗船履歴をクリア

身体検査合格・口述試験合格

免許講習免除

免許取得

国立小樽海上技術短期大学では、2年間で取得が可能

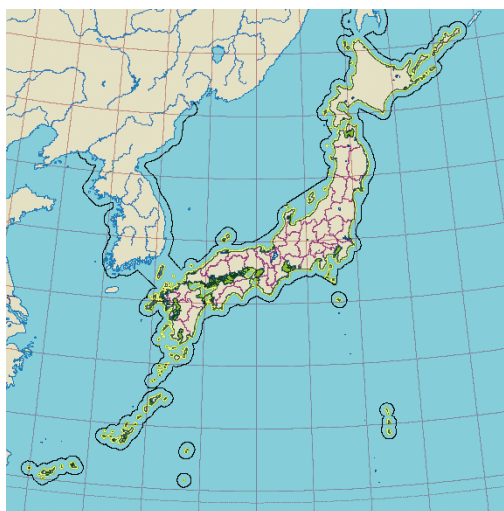


- ※1 カリキュラムには海技資格取得に必要な免許講習が含まれており、卒業後、外部機関での受講は必要ありません。詳しくはカリキュラム左下(登録海技免許講習)をご参照ください。
- ※2 口述試験とは、海技試験官との対話形式で行なわれ、操船や海事法規など船舶の運航に関して出題されます。本校では、口述試験対策の指導も行います。

資格の説明

四級海技士(航海)とは、国家試験の一つで、沿海区域では総トン数5,000トン(全長約120m)未満の船舶の船長ができます。このような船舶は内航船の98%以上を占めています。

※総トン数が5,000トンを超える船舶でも一等航海士までの職務を行うことができます。



四級海技士(航海)以外に、第一級海上特殊無線技士や救命講習など、必要な講習を2年間のうちに行います。

操船シミュレータ装置

本校が所有する操船シミュレータ装置を用いて訓練を行うことで、内航船でよく使用されている大きさの船舶や大型船を操船するほか、様々な気象海象下における操船性の違いを学びます。



操船シミュレータ

電子海図情報表示装置(ECDIS)

船舶に搭載されている電子海図情報表示装置に関する知識と操作を学びます。実際の航行と同じ状態でのECDIS操作を訓練することで、適切な使用法や操作方法を学びます。



電子海図情報表示装置(ECDIS)





カリキュラム

航海専科課程の教授科目及び単位数

●必修科目

科目		単位数
航海(航法・航海計器)		8.5
運用		5
海事法規		3
海洋気象		1.5
機関概要		2
情報技術		0.5
内航海運実務		0.5
海事英語		0.5
実習	航海実技	3
	海上実習	3
	総合訓練	1

●必修科目演習

科目	単位数
操船演習	2
航海計画演習	2
航海技術演習	2
B R M 演習	2
航海実技演習	2
船舶安全概論	1
ECDIS演習Ⅰ	1

●選択科目

科目	単位数
ECDIS演習Ⅱ	1
海運実務英語	1
航海特論	0.5
キャリアデザイン	0.5

●特別教育活動

科目	単位数
特別教育活動	1

合計

44.5

●乗船実習

練習船航海実習	6カ月
---------	-----



登録海技免許講習

レーダー観測者講習

レーダーARPAシミュレータ講習

救命講習

消火講習

航海英語講習

電子海図情報表示装置(ECDIS)講習

ECDIS演習Ⅰ、Ⅱの科目修了試験に合格すると、海技免状のECDIS能力限定解除ができます。

年間行事予定

本校のカリキュラムは大きく分けて、学校における「座学・実技・実習・演習」と大型練習船による3ヶ月×2回の「練習船航海実習」で構成されています。

1年次は主に学校でしっかりと基礎を学び、2年次は大型練習船での実習を通して現場の技術者に求められる実践的な知識や技術を習得します。

1年生		2年生
入学式、前期開始	4月	2年次授業開始
	5月	
防火、防災訓練	6月	海技者セミナー
サバイバル訓練、救命講習	7月	乗船実習
	8月	
前期末試験	9月	
後期開始	10月	第一級海上特殊無線技士講習
	11月	
学年末試験	12月	
乗船実習	1月	
	2月	学年末試験
	3月	卒業式、口述試験

座学・実技・実習・演習

本校卒業後は、四級海技士(航海)の資格を持って就職し、見習いの期間を経て、航海士として活躍します。

バランスの取れた職業人としての能力を養うため座学や実技、実習、演習に加えて、乗船体験(インターンシップ)制度等、専門性に特化したカリキュラムを用意しています。



校内練習船「はりうす」

練習船航海実習

3ヶ月間の実習を2回行う練習船航海実習。この実習で、海上生活の適応力を養い、運航技術を体得します。



大型練習船「大成丸」



在校生の声



授業や実習は、どのようなことをしていますか？難しいですか？



実習はグループに分かれて行い、ロープワークやカッター、海上実習等限られた時間の中で各々が目標を持って取り組み、充実した時間としています。



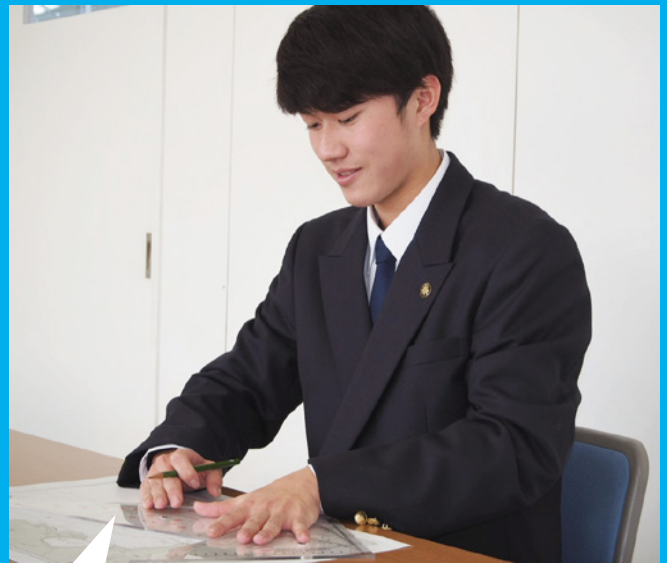
ロープワークは作業の基本となるので繰り返し復習をしています。体で覚えないと、すぐに忘れてしまうので大変です。



オープンキャンパスや学校見学に参加を予定されている方にアドバイスをお願いします。



違う業界で10年間以上働き、小樽海上技術短期大学校に入学しました。
入学後、卒業後、将来について具体的に考えておくと、より有意義な時間を過ごせると思います。



機関科がなく航海科に特化しているので余裕をもって上級免状取得に時間を割くことができ、授業・実習でも学びやすいです。
小樽での一人暮らしも楽しいです。

諸経費・奨学金等

諸経費等 ※令和3年度実績

項目	1年次	2年次
授業料	166,800円	166,800円
生活共益費内訳	学生諸経費	239,000円
	厚生費	6,600円
	学生行事費	800円
	後援会費	12,000円
必要経費合計	425,200円	367,700円

※別途入学金50,000円が必要になります。

※学生諸経費には、制服代・校内服代(1年次のみ)、教材費が含まれます。

奨学金

奨学金団体名	分類	定員	貸与金額(月額)	備考
海技教育財団	貸与	10名	15,000円 または 30,000円	
	給付	2名 1年生のみ	11,000円	所得制限有
全日本海員組合	貸与	6名程度	10,000円 または 16,000円	
日本海員抜済会	貸与	若干名	10,000円	

最近の進路

前身である国立小樽海上技術学校卒業生の大半が船会社に就職し、プロの船員として私たちの暮らしを支えています。昨今の内航船員は非常に不足しており、これからも船員の需要の高まりが見込まれます。

タンカー・貨物船	客船
NSユニテッド内航マリン(株)	小樽カナルポート
アスト(株)	羽幌沿海フェリー(株)
イイノガストラנסポート(株)	新日本海フェリー(株)
エスオーシーマリン(株)	津軽海峡フェリー(株)
エチレン輸送(株)	商船三井フェリー(株)
(株)アズーロジャパン	官庁船・練習船
(株)デュカム	水産庁
(株)ビット	北海道庁
(株)二丈海運	東京海洋大学練習船
コスモ海運(株)	北海道大学練習船
太平洋沿海汽船(株)	タグボート
東北海運産業(株)	(株)オーロラエンタープライズ
旭タンカー(株)	北洋海運(株)
井本商運(株)	東京汽船(株)
英雄海運(株)	調査船
協同商船(株)	日本海洋事業(株)
興栄海運(株)	海洋技術開発(株)
近郵船舶管理(株)	

独立行政法人海技教育機構

国立小樽海上技術 短期大学校

2023

学生募集のご案内

3期生募集



2022年に旧小樽商業高等学校跡地へ移転しました。

本校は、小樽駅から1.6kmのところにあります。駅から「地獄坂」と呼ばれる坂を登り、徒歩で25分、駅から小樽商科大学へ向かうバスもご利用できます。

小樽駅から札幌駅まで快速電車で最短32分。上級海技士筆記試験会場までのアクセスが大変便利です。

オープン キャンパスの ご案内



- 学校説明会
- 校内練習船
「はりうす」の体験航海
- 操船シミュレータ等の体験ができるよ!

第1回 / 6月4日(土)
第2回 / 7月23日(土)
第3回 / 8月16日(火)
第4回 / 9月3日(土)

09:00～受付開始

10:00～15:00 各体験に参加

※学校見学はいつでも可能です。事前にご連絡ください。

学校説明会の予定

学校説明会 in 仙台 : 6月11日(土)
学校説明会 in 新潟 : 6月18日(土)
学校説明会 in 札幌 : 7月2日(土)



交通機関・最寄り駅

JR函館本線「小樽」駅より

北海道中央バス

「小樽商大行き」に乗車 → 「緑3丁目」下車

所在地

〒047-0034 北海道小樽市緑3丁目4番1号

(旧 北海道小樽商業高等学校)

TEL. 0134-31-5533 FAX. 0134-32-1511

E-mail…info-otaru@jmets.ac.jp